

オハイオ州立大学

交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学部

国際言語文化学科 3年



1. はじめに

私は2022年の1月から7月まで、アメリカのオハイオ州立大学で留学をした。異国の地での生活は、7カ月とは思えないくらい短く感じられた。これは、アメリカでの毎日が忙しくも、充実したものになったからに違いない。そこで、この留学報告の機会をもって、私の留学経験の学びを共有したいと考えている。そして、本レポートを読んだ方々に、留学や異文化交流に関して改めて考える機会を提供できれば幸いだ。

2. 価値観の違いを超えるために

私は将来的に、文化背景が異なる方々と仕事をしていきたいと考えている。よって、異文化交流のヒントを得ることは、私の留学の重要な目的だった。そして、私が履修した American Language Program は、このような目的を持っていた自分にとって、最適な授業だった。というのも、この授業でのクラスメイトはアメリカのみならず、サウジアラビア、韓国、中国、タイ、コロンビア、マリ、イタリアと世界のあらゆる国・地域から来た学生だったのだ。したがって、私はこの授業を履修することを通じて、自然と多種多様な文化・宗教の価値観に触れることができた。そして、彼らと長い時間を共に過ごす中で、自分とは異なる文化背景・価値観をもつ人々とどのように関わっていくべきかを考えることができた。

この経験を通じて私が得た学びは2つある。1つ目は、文化背景によって生まれる価値観は実際に存在し、その価値観の違いは多くの場面で考え方の違いを生むということだ。特に、政治や環境問題をはじめとする国際問題など、歴史的な背景が関係する事柄については考え方・意見が大きく異なる。実際に、国家間の関係悪化に伴い、中国出身の学生と台湾出身の学生が友人関係になることは難しくなってしまった。このように、文化背景に伴う価値観や考え方の違いは、異文化交流をしていくにあたって、大きな障害になってしまうと実体験として学んだ。

一方で、この障害を乗り越えることが不可能ではないことも実感した。すでに述べたように、留学を通じて、私は多種多様なバックグラウンドを持つ人々と関わってきたが、文化背景の違いが友人関係に影響を及ぼしたりすることはなかった。加えて、はじめはお互いに理解し合うことが難しいと感じたサウジアラビア人の学生とも、信頼関係を構築することができた。私が彼らとこのような関係を築くことができたのは、お互いがお互いを「〇〇人として」ではなく、「一人の人」として接することができたからではないかと考えている。つまり、文化背景や宗教はその人を形作るものの一部でしかないと考えられるということだ。これが、私の2つ目の学びである。これによって、「〇〇人は△△だから、あの人も△△だろう」という考えはしなくなった。さらに、文化背景に基づく価値観を超え

た個々人の考えをより深く理解することができるようになった。

3. 留学で得た気づき

ここからは、留学したことで得た2つの気づきについて述べていく。あくまでも個人的な気づきであるため、留学とは無関係に思えるかもしれないが、私が大切だと思う考え・価値観なので紹介したいと思う。

1つ目の気づきは、他人に親切にすることの大切さである。私は、留学中にある老夫婦に出会った。彼らは、外国人留学生向けに食事会を毎週開き、私たちに交流の場を提供してくれていたのだ。このことは当然、彼らにとって負担にもなり得ることだったと思う。しかし、彼らは私たちのために毎週食事を用意してくれた。そんな彼らを見て、私は他者に対して親切にすること、そして感謝されることの素晴らしさを実感した。そして、私も、彼らのように他者に貢献できる人になろうとより強く思うようになった。

2つ目の気づきは、挑戦することの大切さだ。私にとって、この留学は挑戦であった。資金的にも余裕があるわけではなかったし、海外で生活することの不安も当然あった。しかし、この挑戦を経て、人として大きく成長できたと実感している。ここから、私は、挑戦の先に大きな成長があるのだと気づくことができた。挑戦していくなかで、失敗することもあるだろう。しかし、その失敗や挫折を乗り越えることで、大きな成長や成功をつかめるのではないか。

4. おわりに

留学が終わった今から振り返ると、昨年の9月に留学することを決意して本当によかったと思う。それは、この約7カ月間で多くのことを学び、成長することができたからだ。一方で、まだまだ成長の余地がたくさんあることも自覚することができた。よって現在は、この留学をただの思い出とするのではなく、この経験を活かすことで、さらに大きく成長し、他者に貢献できる人になりたいと考えている。